

タネ(種)も仕掛け(設備)も誌上初公開!!

年中開花のマル秘!? テクニック

1 ぐっすり、睡眠中

- ・年中開花と言っても、同じ苗ではありません。休眠庫(冷蔵庫)の約600株から、15日毎に20~30株を取り出し②の部屋に移動します。休眠庫は雪の下と同じ温度(-3℃)です。

2 まだまだ、眠いよう!

- ・植物に無理をさせないことが開花調整のポイント。雪解けの時期と同じ環境の部屋へ移し替え、15日間かけて徐々に目ざめます。人工照明点灯時は約7℃、消灯時は約3℃です。

3 春はまだかなあ。

- ・ここでは少し温度の高い環境を作り出すため人工照明点灯時は約12℃、消灯時は約7℃の部屋に移して15日間かけ初春の芽だしから生長へと導きます。

4 わーい! 春がきた!

- ・冷暖房を備えたガラス室に移動。30日間太陽光を浴びせ花を咲かせます。昼間の温度は約18℃、夜間の温度は約12℃に保つようになっています。

5 ゴール! みなさんの目の前へ

待ちに待ったお披露目です。3500メートル以上に分布する高山植物などを高山病の心配もなく鑑賞いただけます。ジオラマ風に展示していますので、現地に行った気分でお楽しみください。

どうして年中、青いケシがみられるの?

ありのままの自然を追求する「咲くやこの花館」では、それぞれの植物が本来開花する季節に咲くよう管理しています。しかし多くの人が「ぜひ

これは見たい!!」という花は、いつでも観賞できるように開花を調整しています。人気の高い「青いケシ」は、世界に類をみない年中開花を実現。

他にもクロユリ、コマクサなどの高山植物を同じ方法で開花調整し、年中花を欠かさないようにつとめています。

プラントエクスプローラ奮闘記

世界の果てにひっそりと息づく、一粒の種子を求めて



今にも途切れそうな生命のバトンを次の世代へ引き継ぐために。私たちは今日も野山を駆け巡ります。

私たちスタッフが持つもう一つの顔

世界各地の植物を育み、展示

し、ご覧いただくことが私たちの主な仕事です。それは希少種をはじめ、さまざまな植物の生命を守る行為でもあると信じています。しかし、現実には急速な勢いで世界中からあらゆる種類の植物が姿を消しています。そこで私たちは、自分たち自身が実際に現地へ足を運び、植物の種子を採取して、同館にて育成する活動を展開中。それが同館に勤めるスタッフの持つもう一つの顔、プラントエクスプローラなのです。

私自身はこれまで51カ国を旅しており、採取した植物は8000種類以上。安全とは言えない場所に足を踏み入れた回数も数え切れません。ここでは「サウスレア」と呼ばれる植物を追い求めて、中国大陸の奥地へ渡ったエピソードをご紹介します。

酸素不足の高山で
岩場に這いつくばって

関西国際空港からのりつい

で雲南省の麗江へ。そこで通訳や運転手と合流し、一路北西へ向かいました。お尻が痛くなる悪路をジープに揺られること約300キロ。目当ての白馬雪山へ辿り着いた時、お日様はちょうど頭上に輝いていました。ひと息つく間もなく、過酷な山登りを開始。急な坂道で、足元はゴツゴツした岩ばかり。しかも大気が薄く、頭の中をガンガン叩かれています。そんな頭痛に悩まされます。「そこまでして植物と出会いたいのか」と、自分にあきれてしまう瞬間です。

今回のターゲット「サウスレア」とは、寒風吹きすさぶ高山に生息するキク科の植物。寒さから身を守るためか、まるでセーターを着込むように豊かな毛で覆われているのが特徴です。しかし色合いは保護色とも言わばき地味な風合いで、プラントエクスプローラ泣かせと言えるでしょう。

それこそ目を皿にし、這いつくばって探すこと約3時間。標高4200メートル付近でや

っと一株を発見。(写真上)なんとか種子を採取し、下山した時はすでに真っ暗でした。待機していた運転手は心配のあまり、もう少しで下山をして助けを求めて捜索に出掛けようとしていたそうです。

採取した植物の子孫を
里帰りさせる日まで

サウスレアは確かに珍しいですが、かつてはそれほど見つかりにくいものではありませんでした。それが薬草として注目され、近年土産物用に売られる地元ハンターの暗躍で激減し、このままでは自然界から消滅する恐れもあります。

私たちは持ち帰って展示するだけでなく、種子を増やして保存するのも目標。植物を取り巻く厳しい現状を皆さんに知っていただくために、そして生命のバトンを次代に引き継ぐために、私たちは今日も世界中の野山を駆け巡ります。

